



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年11月13日

上場会社名 株式会社 シャルレ

上場取引所 東

コード番号 9885 URL <http://www.charle.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼社長執行役員 (氏名) 奥平 和良

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員 管理本部長 (氏名) 高田 博祐

TEL 078-792-8565

四半期報告書提出予定日 2019年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	8,138	1.1	373	236.0	383	230.7	252	282.5
2019年3月期第2四半期	8,048	△6.2	111	△76.5	116	△76.1	66	△78.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	15.95	—
2019年3月期第2四半期	4.17	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	22,828	19,589	85.8	1,237.06
2019年3月期	22,221	19,483	87.7	1,230.35

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 19,589百万円 2019年3月期 19,483百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,580	0.4	100	△72.5	90	△75.9	40	△82.1	2.53

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期2Q	16,086,250 株	2019年3月期	16,086,250 株
2020年3月期2Q	250,348 株	2019年3月期	250,258 株
2020年3月期2Q	15,835,954 株	2019年3月期2Q	15,836,105 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。詳細は添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第2四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善が続き、景気は緩やかな回復基調にあるものの、米中間の通商問題が増々深刻化する中、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響が懸念されることから、先行き不透明な状況で推移しました。

国内レディースインナーウェア市場におきましては、個人消費は持ち直しつつも、節約志向や生活防衛意識は依然と根強く、消費税率引き上げによる個人消費の冷え込みの懸念など、当社を取り巻く経営環境は厳しさを増しております。

このような環境のもと、当社は、2019年4月より2022年3月期を最終年度とする3か年の中期経営計画を策定し、「シャルレビジネス事業の再生」と「新規事業開発による新たな柱の創造」の2つの基本戦略に基づき、事業改革の促進、業績回復等に向け、シャルレビジネスの環境整備や商品開発体制の見直し等に積極的に取り組んでまいりました。

商品面におきましては、衣料品類では、新定番商品として、スポーツ用のインナーウェアである「スポーツブラジャー・ショーツ」を発売するとともに、数量限定商品として、縫い目やテープなどを使用しないインナーウェアである「ハーフトップ・ショーツ(無縫製)」を発売いたしました。また、ブラジャーを対象とした販売促進キャンペーンである「ブラフェスタ(4月～5月)」を実施したことや、消費税増税前による駆け込み需要が追い風となり、ファンデーション類全体の売上高は前年を大幅に上回りました。アウター類では、「シャルレドレス」より、秋冬のシーズンに向けたカットソーやパンツを発売しましたが、発売アイテム数を縮小させたことにより、売上高は前年を下回りました。加えて、日常のウォーキングシーンを想定した「サポートワーク」より、ジャケット、カットソー、パンツを発売しましたが、販売状況は低調な推移となり、アウター類全体の売上高は前年を大幅に下回りました。以上、衣料品類全体の売上高は61億39百万円(前年同四半期比2.3%減)と前年を下回りました。

化粧品類では、主力ブランドである「エタリテ」より、「エタリテ オーラマージュ」シリーズに「モリンガエキス」に加え、海藻から抽出した成分を新配合し、リニューアル発売を行い、加えてプロモーション用の販促商品を発売し、化粧品類全体の売上高は13億75百万円(同21.7%増)と前年を大幅に上回りました。

健康食品類では、長崎県の研究機関及び、長崎県立大学、長崎大学、九州大学の研究プロジェクトで開発された製茶法(混合発酵)とお茶の持つ健康成分に着目した当社との産官学の共同開発商品である「びわの葉入りまるごと発酵茶」に内臓脂肪を減らす機能が確認され、この度、機能性表示食品として発売し、売上高は伸長しました。また、前年に新発売した「つやっとハトムギ」の販売状況は堅調に推移しましたが、他の定番商品が低調に推移したことにより、健康食品類全体の売上高は4億81百万円(同0.6%減)となり、前年を下回りました。

営業施策面におきましては、ビジネスメンバーの販売活動の活性化を目的とした「シャルレスマイルプロジェクト2020」において、4月よりメイト会員及び一般消費者を対象としたプレゼント企画である「ワクワクキャンペーン(4月～5月)」を実施するとともに、前述の「ブラフェスタ(4月～5月)」を実施しました。いずれのキャンペーンにおいても、顧客との接点強化を目的に、新規顧客の獲得に積極的に取り組んでまいりましたが、新メイト育成人数は伸長せず、前年を大幅に下回りました。なお、9月より「チャレンジコンテスト2019(9月～11月)」を実施し、ビジネスメンバーの販売活動促進を図っております。

通信販売の「シャルレダイレクトサービス」におきましては、新規会員の獲得及び既存会員のリピート率の向上を目的とした販促キャンペーン等を実施しました。また、消費税増税前の駆け込み需要の影響もあり、受注単価が大幅に伸長し、売上高は前年を上回りました。

新規事業におきましては、当社の第2の柱となる事業の探索を継続しております。

これらの結果、当第2四半期累計期間の経営成績につきましては、売上高は81億38百万円(同1.1%増)となりました。利益面につきましては、売上高の増加や販売費及び一般管理費の減少により、営業利益は3億73百万円(同236.0%増)、経常利益は3億83百万円(同230.7%増)、四半期純利益は2億52百万円(同282.5%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

総資産は、現金及び預金の増加6億19百万円等により、前事業年度末に比べ6億6百万円増加し、228億28百万円となりました。

負債は、買掛金の増加1億71百万円、未払金の増加2億4百万円、未払法人税等の増加1億84百万円等により、前事業年度末に比べ5億円増加し、32億38百万円となりました。

純資産は、剰余金の配当1億58百万円、四半期純利益2億52百万円等により、前事業年度末に比べ1億6百万円増加し、195億89百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前事業年度末に比べ、1.9ポイント低下し85.8%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ6億19百万円増加し、91億34百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、10億60百万円の収入(前年同四半期比95.1%増)となりました。主な要因は、税引前四半期純利益3億79百万円、減価償却費及びその他の償却費2億60百万円、未払金の増加額2億28百万円であります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、2億54百万円の支出(同103.6%増)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出1億52百万円、無形固定資産の取得による支出72百万円であります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億87百万円の支出(同23.5%減)となりました。主な要因は、配当金の支払額1億58百万円であります。

(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月13日に公表しました業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,515	13,134
売掛金	89	148
有価証券	72	72
商品	3,821	3,781
貯蔵品	40	22
その他	185	146
貸倒引当金	△9	△10
流動資産合計	16,714	17,295
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,047	1,023
土地	907	907
その他(純額)	786	613
有形固定資産合計	2,740	2,544
無形固定資産		
ソフトウェア	778	764
その他	11	10
無形固定資産合計	789	775
投資その他の資産		
投資有価証券	434	441
前払年金費用	954	963
繰延税金資産	358	399
その他	235	414
貸倒引当金	△5	△4
投資その他の資産合計	1,976	2,214
固定資産合計	5,507	5,533
資産合計	22,221	22,828

(単位:百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	663	835
未払金	817	1,022
未払法人税等	26	210
賞与引当金	223	153
その他	219	280
流動負債合計	1,950	2,502
固定負債		
売上割戻引当金	189	190
退職給付引当金	250	233
その他	347	312
固定負債合計	787	736
負債合計	2,737	3,238
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,600	3,600
資本剰余金	4,897	4,897
利益剰余金	11,131	11,225
自己株式	△131	△131
株主資本合計	19,497	19,591
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△13	△1
評価・換算差額等合計	△13	△1
純資産合計	19,483	19,589
負債純資産合計	22,221	22,828

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	8,048	8,138
売上原価	4,238	4,261
売上総利益	3,809	3,876
販売費及び一般管理費	3,698	3,502
営業利益	111	373
営業外収益		
受取利息	0	0
有価証券利息	—	3
雑収入	6	8
営業外収益合計	6	12
営業外費用		
支払利息	0	1
雑損失	1	0
営業外費用合計	1	2
経常利益	116	383
特別利益		
投資有価証券売却益	2	—
特別利益合計	2	—
特別損失		
固定資産除却損	0	4
特別損失合計	0	4
税引前四半期純利益	118	379
法人税、住民税及び事業税	83	167
法人税等調整額	△31	△41
法人税等合計	52	126
四半期純利益	66	252



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	118	379
減価償却費及びその他の償却費	234	260
受取利息及び受取配当金	△0	△4
投資有価証券売却益	△2	—
固定資産除却損	0	4
売上債権の増減額(△は増加)	△28	△58
たな卸資産の増減額(△は増加)	△105	57
前払年金費用の増減額(△は増加)	△30	△9
仕入債務の増減額(△は減少)	213	171
未払金の増減額(△は減少)	156	228
前受金の増減額(△は減少)	19	14
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△21	△16
その他	36	6
小計	592	1,034
利息及び配当金の受取額	0	4
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△48	23
その他	△0	△1
営業活動によるキャッシュ・フロー	543	1,060
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	12	4
有形固定資産の取得による支出	△46	△152
無形固定資産の取得による支出	△82	△72
その他	△8	△33
投資活動によるキャッシュ・フロー	△124	△254
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△236	△158
リース債務の返済による支出	△7	△28
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△244	△187
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	173	619
現金及び現金同等物の期首残高	12,367	8,515
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,541	9,134

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。